

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日 (中間配当を実施する場合)
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081
同連絡先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎0120-232-711(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店(下記ご注意ください)

【株式に関する手続き用紙のご請求について】

株式に関する手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等)のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。

☎0120-244-479(通話料無料)

インターネットアドレス
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場証券取引所	ジャスダック証券取引所 電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.techmatrix.co.jp/
公告の方法	(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて

株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。

なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

平成21年1月5日施行の株券電子化実施に伴うお知らせ

● 特別口座について

(1) 特別口座への口座残高の記帳

株券保管振替制度をご利用でない株主様につきましては、ご所有の株式は三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます(平成21年1月26日に記録される予定です)。なお、特別口座に記録された株式数等のご案内は、平成21年2月中旬頃に、三菱UFJ信託銀行から、お届けのご住所宛にお送りする予定です。

(2) 特別口座に記録された株式に関するお手続き

特別口座に記録された株式に関するお手続き(株主様の口座への振替請求・単元未満株式買取(買増)請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等)につきましては、株券電子化実施後、下記口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)の連絡先にお問合せください。なお、特別口座に記録された株主様のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお取次ぎいたします。

(3) 特別口座の口座管理機関及び連絡先

特別口座の口座管理機関は、当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行となります。

口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711(通話料無料)

(4) 特別口座の口座管理機関でのお手続きの受付の開始時期

特別口座に記録された株式についての、株主の口座への振替請求、単元未満株式買取(買増)請求等の各種ご請求やお届出につきましては、平成21年1月26日(月)以降にお手続きが可能となりますので、ご注意ください。

ホームページ紹介



<http://www.techmatrix.co.jp/>

TechMatrix

テクマトリックス株式会社



本冊子は環境保全のため再生紙を使用し、大豆インキで印刷しています。

TechMatrix

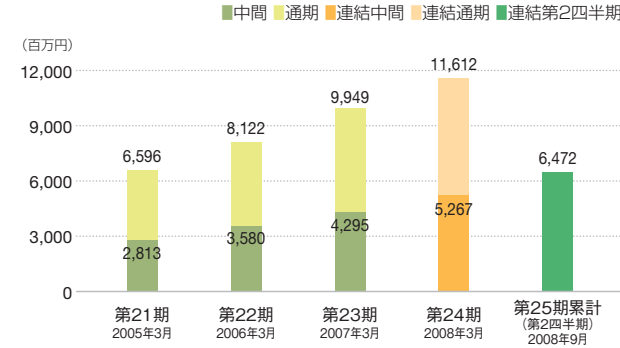
第25期中間報告書

2008.4.1 ▶ 2008.9.30

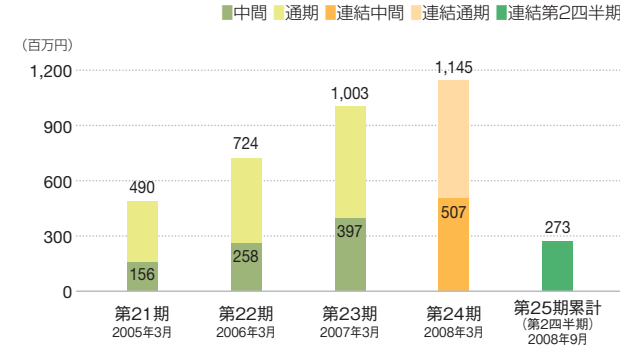
TMX Way 2010

業績ハイライト

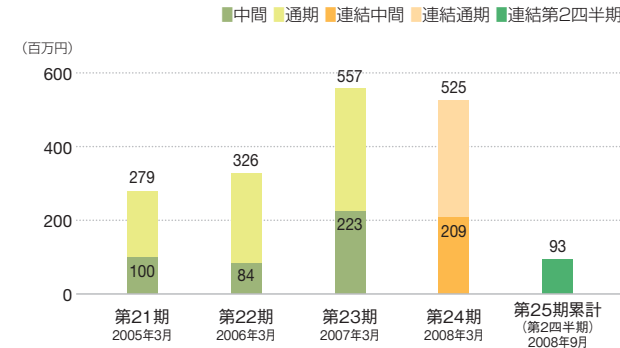
売上高



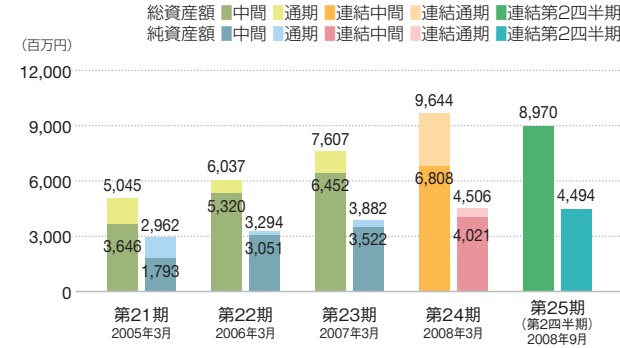
経常利益



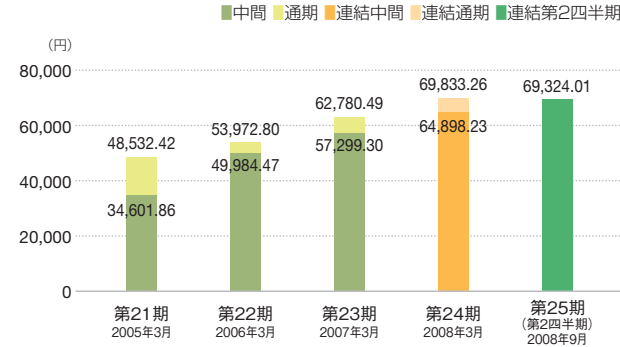
純利益



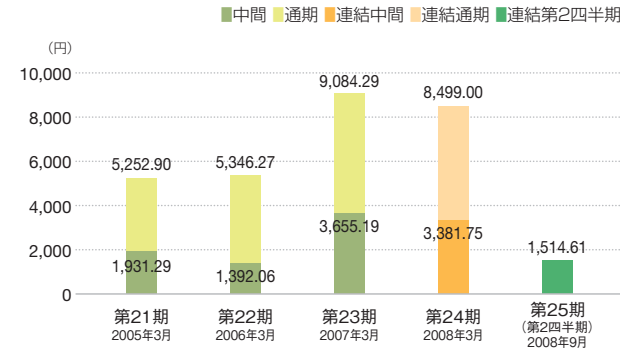
総資産額／純資産額



1株当たり純資産



1株当たり純利益



※ 2005年5月20日付けで普通株式1株につき2株の株式分割を行っており、第21期の指標は遡及修正した数値にて表示しております。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日々益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第25期（2008年4月1日～2009年3月31日まで）の上半期が終了致しましたので、ここに中間報告書をお届けし、営業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。

第25期は、当社中期経営計画「TMX Way 2010」の2年目、折り返し地点となります。前期には、経営スピードを加速するために、ネットワーク・セキュリティなど主に基盤系の技術者を多く抱え、保守・運用業務に強みを持つ「クロス・ヘッド株式会社」の買収、医療画像分野におけるストック型ビジネスを推進する連結子会社「合同会社医知悟」の設立など、積極的な事業投資を実行しました。その結果として、当社は単体経営から「テクマトリックス・グループ」の連結経営へ移行し、中期経営計画「TMX Way 2010」の2年目、3年目の目標数値を上方修正致しました。しかしながら、米国のサブプライム問題に端を発した世界規模の信用不安は日々深刻さを増し、金融恐慌、世界同時不況の様相を呈してまいりました。円高の影響も加わり、金融、製造業を中心に日本経済を取り巻く環境はより一層厳しさを増しました。厳しい経営環境の中、当社も営業努力を続けましたが、大型案件の受注すれ込みや、棚上げが増え、また、マイナス経済成長下での競争激化も重なり、残念ながら、第25期中間決算は、業績見通しに対して未達となり、業績下方修正を余儀なくされました。下半期以降も景気の冷え込みは顕著で、厳しい経営環境が続くことが予想されます。

しかし、厳しい経営環境は、新しい変化が起こる、あるいは変化を引き起こすチャンスでもあります。顧客の初期投

資を抑えることができ、ITにおける持たざる経営を象徴する「SaaS」(Software as a Service)型サービスなどの新しいビジネス・モデルにとっては、今は飛躍のチャンスと言えるでしょう。既存のIT資産の有効活用を促す仮想化技術や、電力消費を削減するグリーンITも成長の時期を迎えています。複雑な金融デリバティブのリスク管理も焦眉の課題となっています。インターネットを活用した新しいビジネス・モデルを掲げる新興企業の成長も止まってはなりません。苦しい時に何に取り組むかによって、逆風を耐え抜くことができる当社の企業体力に今後差が出てくると考えています。従い、経営マインドを縮めることなく、第25期下半期においても、積極果敢に新しいチャレンジを続けていきます。顧客企業のIT予算の引き締めは当面続くと思われませんが、IT投資に引き続き積極的な市場セグメントを見極め、付加価値の高い、時代のニーズに合致したソリューションを提案することにより、当社は成長を続けてまいります。

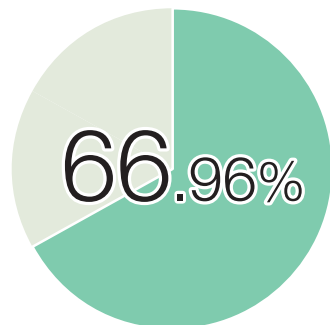
第25期は、前期に実施した投資の収穫期であると同時に、前述のように変化に対応し、変化を先取りするための、チャレンジの時期でもありません。当社は、これからも企業価値の向上を通して、株主の皆様への貢献を目指します。今後とも株主の皆様にはより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



2008年11月

代表取締役社長 由利 孝

プロダクト・インテグレーション事業



売上高 4,333百万円
営業利益 419百万円

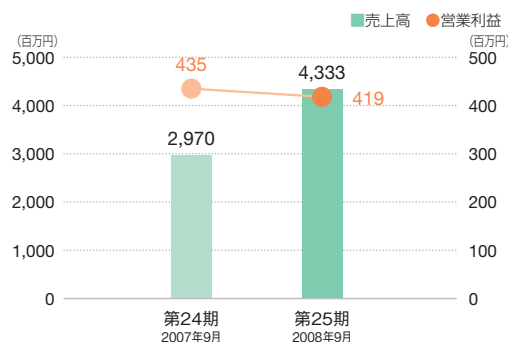
● 営業の概況

IPネットワーク・インフラストラクチャ分野では、主力の負荷分散装置の販売が第1四半期では、若干停滞しましたが、第2四半期は堅調に推移しました。クラスター・ストレージ製品については、複数の新規客先からの受注を獲得しました。また、今期より販売を開始したストレージ仮想化製品を第2四半期に初受注しました。

セキュリティ・ソリューション分野では個人認証システム、スパム対策アプライアンス等の主力製品の販売が堅調に推移しました。

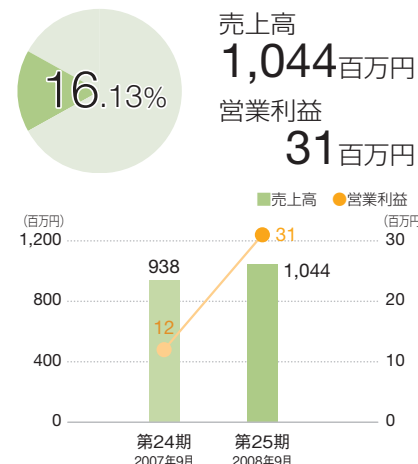
ソフトウェア品質保証分野では、組込みソフトウェア向けテストツールの販売及びコンサルティングサービスは堅調に推移しましたが、情報システム向けテストツールの販売はやや停滞しました。

以上により、同事業の売上高は43億33百万円、営業利益は4億19百万円となりました。



PARASOFT
Jtest[®]
A Parasoft AEP Technology™
情報システム向けテストツール

カスタムメイド・ソリューション事業



● 営業の概況

カスタマー・ソリューション分野では、一部の客先においてIT予算削減の動きが見られるものの、継続取引先とのビジネスは概ね堅調に推移しました。

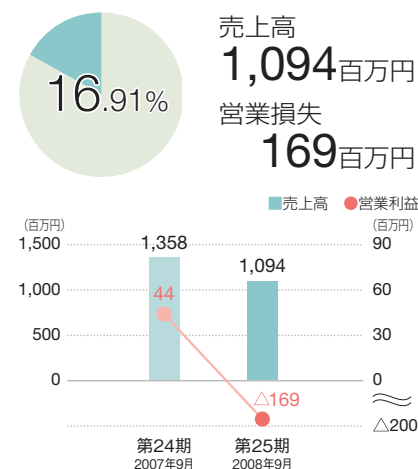
金融ソリューション分野では、パッケージ製品の受注は複数獲得しましたが、全体的に商談が長期化する傾向にあり、受注・売上を伸ばすことができませんでした。

以上により、同事業の売上高は10億44百万円、営業利益は31百万円となりました。



Apreccia : 金融取引統合管理パッケージ

パッケージ・ソリューション事業



● 営業の概況

医療ソリューション分野では、診療報酬改定によるフィルムレス加算拡大の影響から引合い件数が増加しており、順調に受注を積み上げましたが、競合他社の積極的な価格攻勢により採算が悪化しました。

CRM分野では、既存客先からの追加受注は堅調に積み上げたものの、新規客先向けの案件については商談が長期化する傾向にあり、受注・売上を伸ばすことができませんでした。

以上により、同事業の売上高は10億94百万円、営業損失は1億69百万円となりました。



マルチチャンネルコンタクトセンターシステム



DICOM規格に対応した医用画像管理サーバーシステム

「FastHelp4」及び「FastHelp SaaS」を販売を開始

2 008年5月にFastHelpの第4世代版である「FastHelp4」及びSaaSバージョンの「FastHelp SaaS」の販売を開始しました。

FastHelpシリーズは、電話・メール等の対応履歴を一元管理できる自社開発のコンタクトセンター向け業務アプリケーションであり、これまでに500社以上の企業に導入実績があります。「FastHelp4」は、「さらに使いやすく」・「さらに機能的に」・「さらに効率的に」の3つの開発コンセプトの基に、11年間積み重ねてきた経験と技術の全てをつぎ込んだ集大成の製品です。ユーザによる画面のカスタマイズが可能となったことが最大の特長であり、これにより、操作性と機能が大幅に向上しています。

FastHelp4

FastHelp SaaS

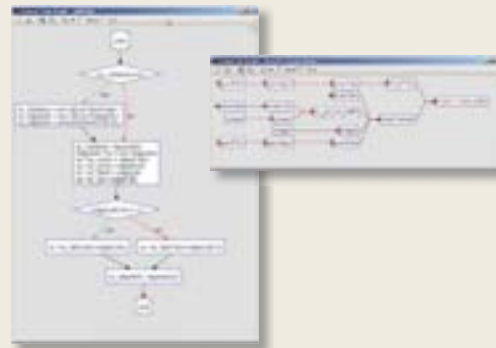
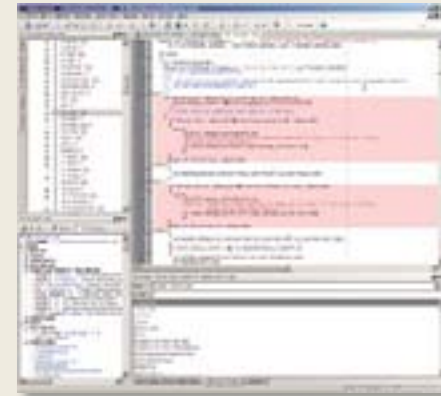
TOPICS

米国Scientific Toolworks, Inc.と国内総販売代理店契約を締結 ソースコード解析ツール「Understand 2.0」を販売開始

当社は、米国Scientific Toolworks, Inc.と国内総販売代理店契約を締結し、同社が開発したソースコード解析ツール「Understand 2.0」の販売を開始しました。

「Understand 2.0」は、C, C++, C#, Javaに対応した包括的なソースコード解析ツールです。アーキテクチャから個々の機能まで、あらゆるレベルでソースコードを分析し、プログラムの制御フローや構造、クラス継承、関数や変数の関係など、多彩な角度からソースコードをビジュアル化します。「Understand 2.0」を利用することにより、迅速なレビューと効率的な調査が可能になり、生産性の向上と高品質なソフトウェア開発を行うことが可能となります。

Understand
Source Code Analysis & Metrics



シナジーマーケティング株式会社と業務提携

2 008年8月に、シナジーマーケティング株式会社と業務提携を行うことで合意しました。

シナジーマーケティングは、統合顧客管理のASPサービス「Synergy!」を軸に、Agent事業、SI事業を含むCRMのトータルサービスを提供しています。「Synergy!」の事業が拡大する一方で、それに関連したシステムの受託開発・運用保守等のニーズも拡大しており、顧客のニーズに幅広く対応するには、より大規模なシステム開発に対応するための体制の確立が不可欠でした。

当社はカスタムメイド・ソリューション事業において、大規模なシステム開発の実績を有しており、かつweb系のシステム開発に強みを持っています。同事業においては、楽天株式会社、リスクモンスター株式会社等の継続顧客とのビジネスは順調に推移していますが、事業の拡大のためには新規の継続顧客の獲得が課題となっていました。

今回のシナジーマーケティングとの提携により、新規のシステム開発案件の獲得につながるものと期待しています。

SynergyMarketing

TOPICS

F5 ARX(旧 Acopia)の取扱いを開始

F 5 ARXシリーズは、企業やサービスプロバイダにおける異機種混在のストレージを仮想的に統合管理することができる、インテリジェントなファイル仮想化ソリューションです。大規模ストレージ環境における運用効率を大幅に改善することが可能になります。



EVENTS

- | | |
|---|---|
| 2008/04/04~
2008/04/06 『国際医用画像総合展2008』
(会場：パシフィコ横浜) | 2008/06/27 『継続的最適化を支えるBPMソリューションセミナー』
(会場：東京コンファレンスセンター・品川) |
| 2008/04/23~
2008/04/24 『RSA® Conference 2008 Japan』
(会場：ザ・プリンスパークタワー東京) | 2008/07/01~
2008/07/02 『SANS Future Visions 2008 Tokyo』
(会場：ホテル日航東京) |
| 2008/05/14~
2008/05/16 『情報セキュリティ EXPO』
(会場：東京ビックサイト) | 2008/07/14~
2008/07/15 『トレーディング&リスクマネジメントテクノロジーフェア2008』
(会場：大手町サンケイプラザ) |
| 2008/05/14~
2008/05/16 『組込みシステム開発技術展』
(会場：東京ビックサイト) | 2008/07/16~
2008/07/18 『国際モダンホスピタルショー2008』
(会場：東京ビックサイト) |
| 2008/06/09~
2008/06/13 『INTEROP TOKYO 2008』
(会場：幕張メッセ) | 2008/07/31 『「次期ACC」債権管理ソリューションセミナー』
(会場：第一ホテル東京) |
| 2008/06/18 『G-FORCE2008』
(会場：セルリアンタワー東急ホテル) | |

四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位:百万円)

科 目	第25期(当第2四半期) 2008年9月30日現在	第24期(前期) 2008年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	6,174	7,050
現金及び預金	1,955	2,146
受取手形及び売掛金	2,552	3,186
商品	261	320
仕掛品	168	209
前払保守料	870	742
その他	368	447
貸倒引当金	△2	△2
固定資産	2,795	2,593
有形固定資産	325	287
無形固定資産	1,384	1,307
投資その他の資産	1,085	998
資産合計	8,970	9,644
(負債の部)		
流動負債	3,973	4,670
固定負債	501	467
負債合計	4,475	5,137
(純資産の部)		
株主資本	4,313	4,330
資本金	1,298	1,298
資本剰余金	1,405	1,405
利益剰余金	1,609	1,627
評価・換算差額等	△22	△8
新株予約権	10	7
少数株主持分	193	176
純資産合計	4,494	4,506
負債純資産合計	8,970	9,644

四半期連結損益計算書 (要約)

(単位:百万円)

科 目	第25期(当第2四半期) 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	【ご参考】 第24期(前中間期) 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで
売上高	6,472	5,267
売上原価	4,462	3,622
売上総利益	2,009	1,644
販売費及び一般管理費	1,727	1,152
営業利益	281	492
営業外収益	4	15
営業外費用	13	0
経常利益	273	507
特別利益	1	0
特別損失	29	95
税金等調整前純利益	244	411
法人税、住民税及び事業税	79	195
法人税等調整額	54	△8
法人税等合計	133	187
少数株主利益	17	△1
純利益	93	209

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位:百万円)

科 目	第25期(当第2四半期) 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	【ご参考】 第24期(前中間期) 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	83	318
投資活動によるキャッシュ・フロー	△99	△740
財務活動によるキャッシュ・フロー	△87	△102
現金及び現金同等物の期首残高	△103	△524
増減額(△は減少)		
現金及び現金同等物の期首残高	2,058	1,947
現金及び現金同等物の期末残高	1,955	1,422

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

「株主様アンケート」集計結果のご報告

アンケートにご協力いただき、 ありがとうございました。

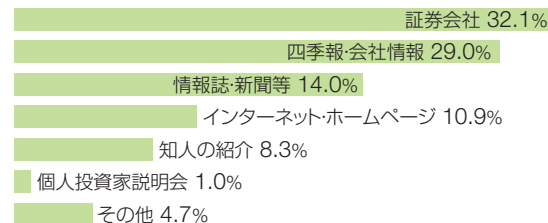
第24期報告書に同封させていただきましたアンケートに221枚(回収率9.7%)のご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

率直なご意見も頂戴し、今後の経営に役立ててまいりたいと考えております。

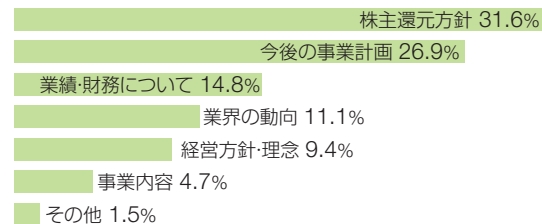
ここで、アンケート結果の一部をご紹介します。

「株主様アンケート」集計結果

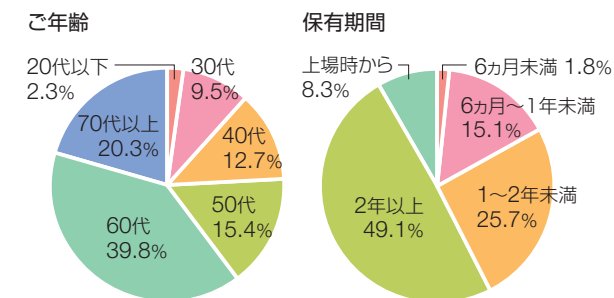
●当社をどこでお知りになりましたか？



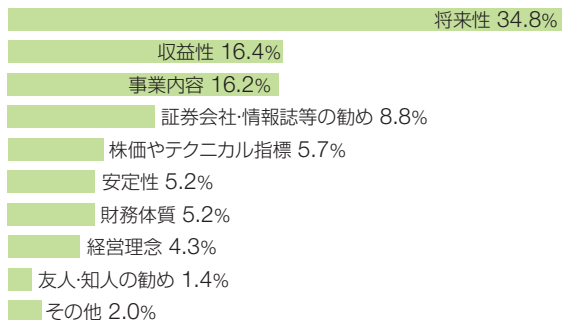
●当社に関してもっとお知りになりたい情報は？



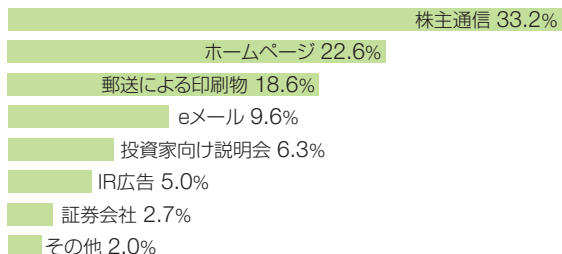
株主様構成



●当社株式を購入された際、何を重視されましたか？



●当社へ望まれる情報提供の手段をお聞かせください。



会社概要／株式情報 (2008年9月30日現在)

会社概要

商号	テクマトリックス株式会社 (英語名 TechMatrix Corporation)
設立	1984年8月30日
上場	2005年2月18日
資本金	12億9,812万円
従業員数	422名(うち93名は派遣社員等)
本社所在地	東京本社 〒108-8588 東京都港区高輪4丁目10番8号 京急第7ビル TEL:03(5792)8600(代表) FAX:03(5792)8700
国内営業所	本社御殿山分室 〒140-0001 東京都品川区北品川4丁目7番35号 御殿山トラストタワー TEL:03(5792)8640(代表) FAX:03(5792)8740 大阪支店 〒541-0054 大阪市中央区南本町2丁目6番12号 サンマリオンNBFタワー TEL:06(6243)3801(代表) FAX:06(6243)3803 九州営業所 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目5番地1号 カーニブレイス博多ビル TEL:092(475)8051(代表) FAX:092(475)8052

役員

代表取締役社長	由利 孝	執行役員	小宮 修
取締役執行役員	依田 佳久	常勤監査役	内田 宗興
取締役執行役員	大城 東	監査役	高山 健
取締役	杉原 章郎	監査役	和田 尚史
取締役	西村 順介	監査役	三浦 亮太
上席執行役員	中島 裕生		

株式の状況

発行可能株式総数	207,360株
発行済株式の総数	61,898株
株主数	2,188名
大株主(上位10名)	

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
楽天株式会社	19,200	31.01
日商エレクトロニクス株式会社	18,473	29.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,411	5.51
シナジーマーケティング株式会社	2,638	4.26
ユービーエスエージーロンドンアカウントアイピー ビーセグリゲイテッドクライアントアカウント	2,315	3.74
常任代理人 シティバンク銀行株式会社 テクマトリックス従業員持株会	1,383	2.23
ジェービーエムシーエヌエイアイティーエスロンドンクライアント アカウントモルガンスタンレイアンドカンパニーインターナショナル	876	1.41
常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行現証券決済業務室 リスコムンスター株式会社	700	1.13
TIS株式会社	611	0.98
パークレイズバンクビーエルシー パークレイズキャピタルセキュリティーズ	292	0.47
常任代理人 スタンダードチャータード銀行		

株式分布状況

